

5

環境の状況

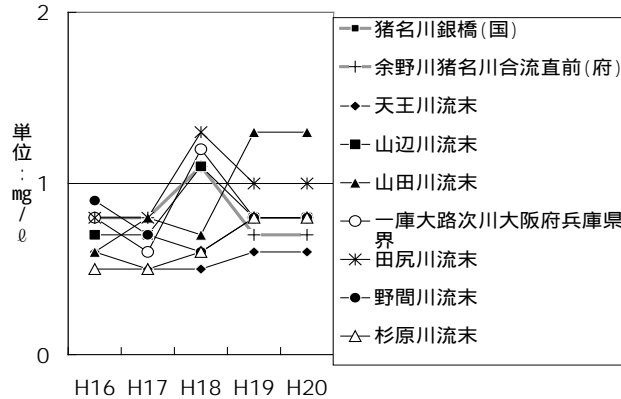


(1) 生活環境

河川水質の測定

平成 16 年度から平成 20 年度までの町内河川流末での生物化学的酸素要求量 (BOD) の状況

《生物化学的酸素要求量年75%値》



類型	BOD 値
AA	1 mg/l 以下
A	2 mg/l 以下
B	3 mg/l 以下
C	5 mg/l 以下
D	8 mg/l 以下
E	10 mg/l 以下

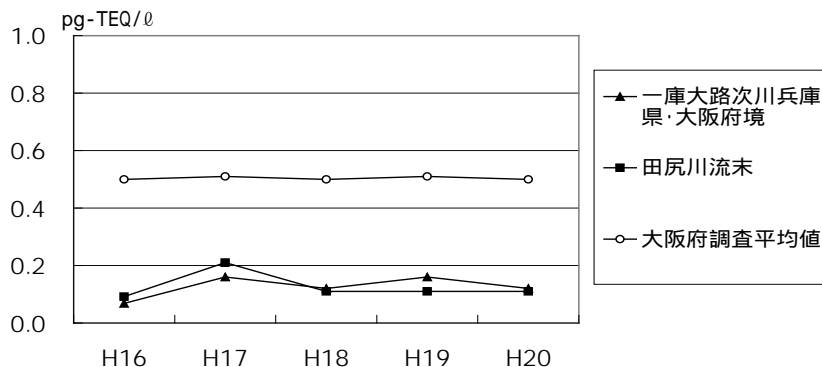
< 出典：能勢町及び大阪府「大阪府公共用水域等水質調査結果」 >

能勢町の河川では、一庫・大路次川、山辺川、田尻川が環境基本法による水質汚濁にかかる環境基準で A 類型指定されています。平成 20 年度現在の状況は、全ての河川で A 類型の環境基準値を満たしており、良好といえます。

BOD とは、水中の微生物が汚濁物等を酸化分解する際に必要とする酸素量で、有機物による水質汚濁の指標として使われます。この数値が大きいくほど汚れていることを示します。

河川及び地下水質及び土壌環境のダイオキシン類の調査

A. 河川水



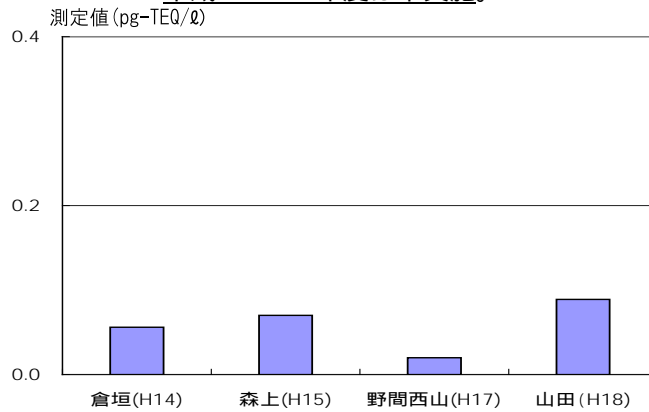
環境基準値
1pg-TEQ/l 以下

環境基準値以下である。

< 出典：大阪府「公共用水域に係るダイオキシン類の環境調査結果」 >

B. 地下水

平成 19・20 年度は未実施。



環境基準値

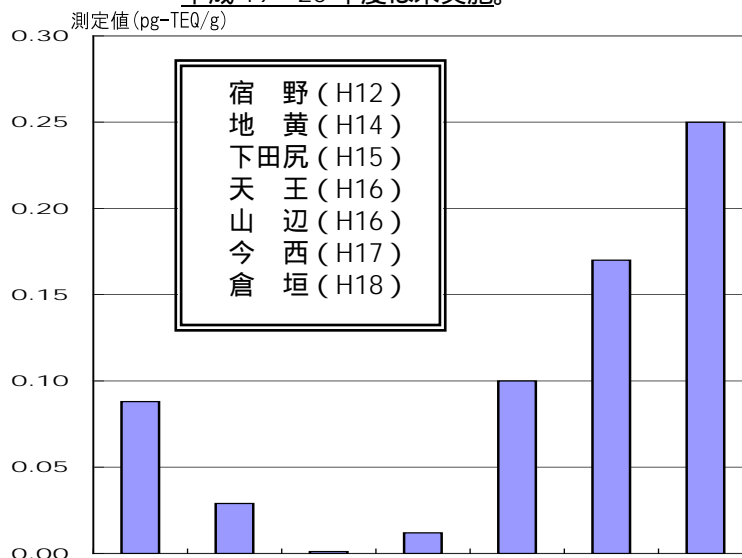
年間平均値 1pg-TEQ/l 以下

平成 14 年度～18 年度大阪府において調査されており、環境基準値以下である。

< 出典：大阪府「地下水に係るダイオキシン類の環境調査結果」 >

C. 土 壤

平成 19・20 年度は未実施。



環境基準値

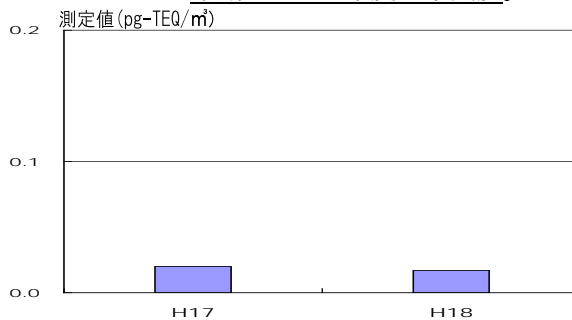
1,000pg-TEQ/g

平成 12 年度～18 年度大阪府において調査されており、環境基準値以下である。

< 出典：大阪府「土壌に係るダイオキシン類の環境調査結果」 >

D. 大 気

平成 19・20 年度は未実施。



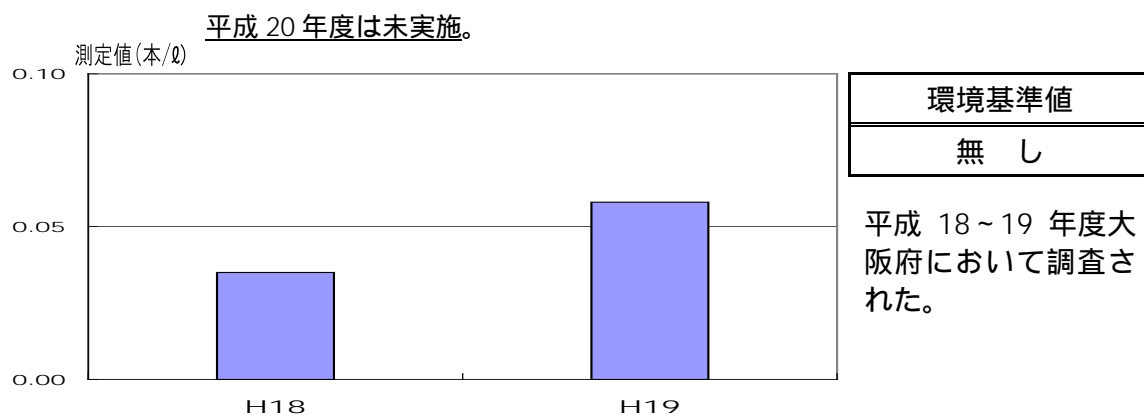
環境基準値

0.6pg-TEQ/m³

平成 17～18 年度大阪府において調査されており、環境基準値以下である。

< 出典：大阪府「環境大気中のダイオキシン類濃度の測定結果」 >

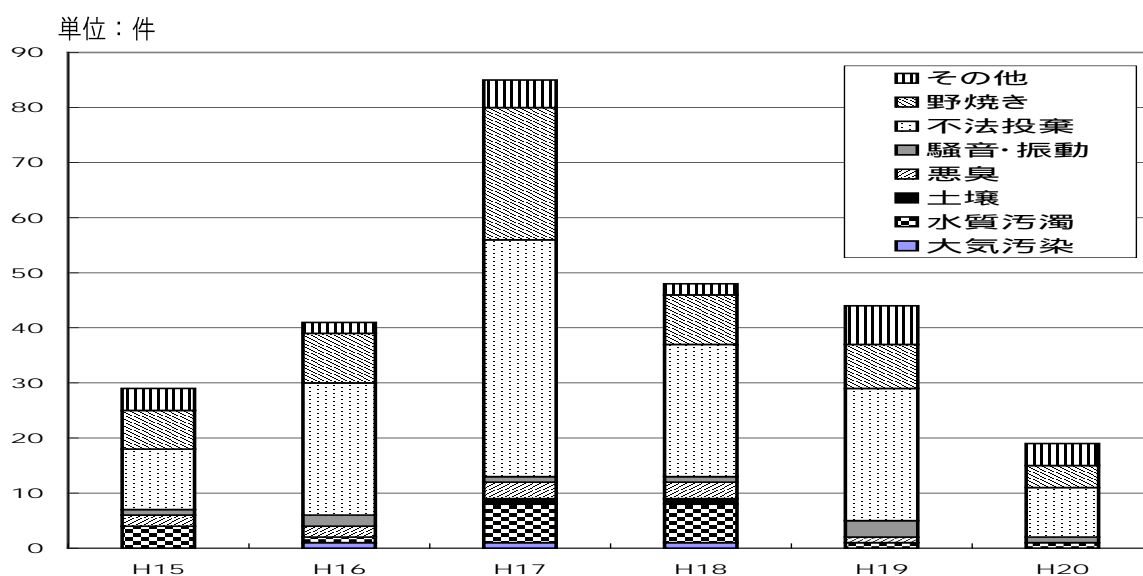
環境中のアスベストの測定



< 出典：大阪府「環境大気中のアスベスト濃度の測定結果」 >

公害苦情発生件数

能勢町内における公害関係苦情の件数の推移



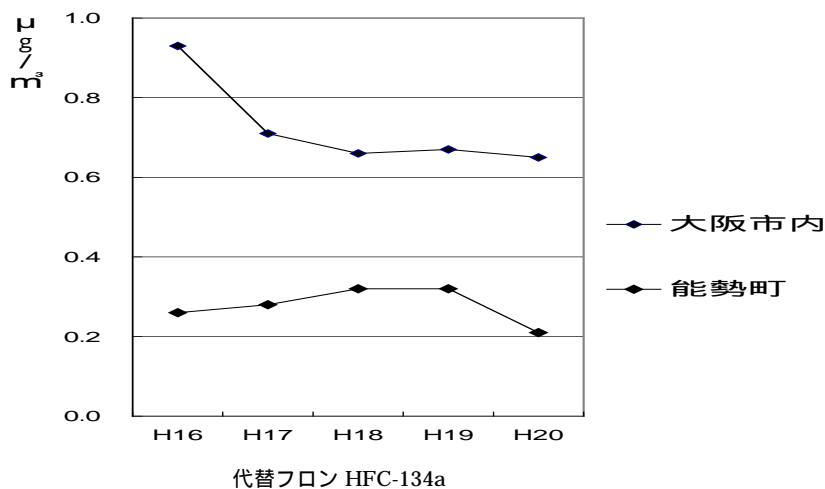
< 出典：能勢町環境創造部地域振興課 >

公害に関する苦情は、典型 7 公害に関するものより、不法投棄と野焼きの件数が多いものの近年は、減少傾向にある。

典型 7 公害（大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、悪臭、騒音、振動、地盤沈下）以上 7 つの項目を典型 7 公害といいます。

(2) 地球環境

温室効果ガスの測定



都市部に比べて、低い値となっています。これは、事業所や人口密度が低いからと考えられます。

出典：大阪府環境情報センター「温室効果気体等モニタリング結果」

温室効果ガス

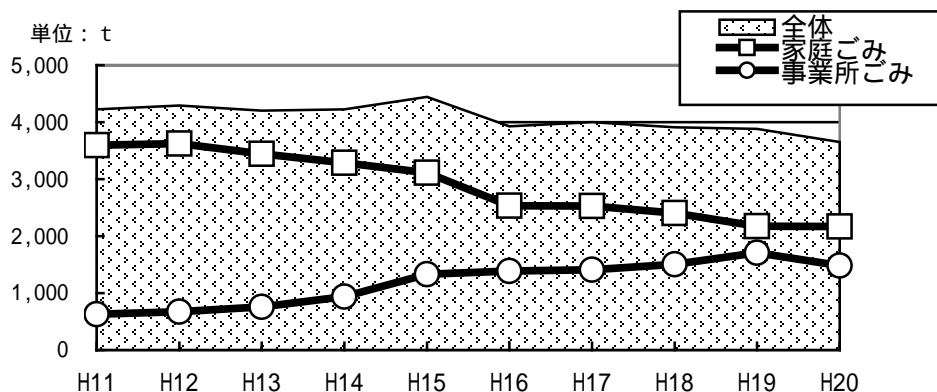
1997年12月「地球温暖化防止京都会議：COP3」で温室効果ガスとして二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)、一酸化二窒素(N₂O)、代替フロン等3ガス(ハイドロフルオロカーボン(HFC)・パーフルオロカーボン(PFC)・六フッ化硫黄(SF₆))が対象とされました。

このうちHFCは代替フロンと一般的に呼ばれており、カーエアコン、ルームエアコン、冷蔵庫、冷凍庫、発泡剤、エアゾール缶や精密機械の洗浄などに広く使われています。フロンはオゾン層を破壊することから生産規制が行われ、CFC(クロロフルオロカーボン)からHCFC(ハイドロクロロフルオロカーボン)、HFCなどオゾン層破壊性の低い代替品への移行がされてきています。

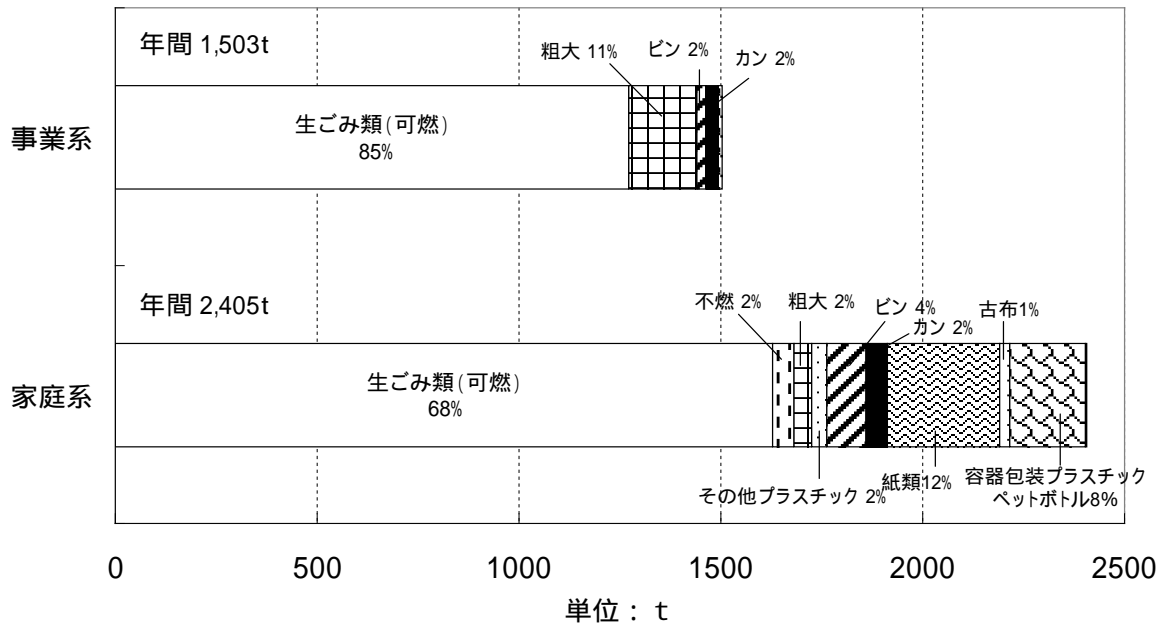
しかしながらフロンは地球温暖化への影響があることから、非フロン系使用への代替促進が求められています。

(3) ごみの排出量

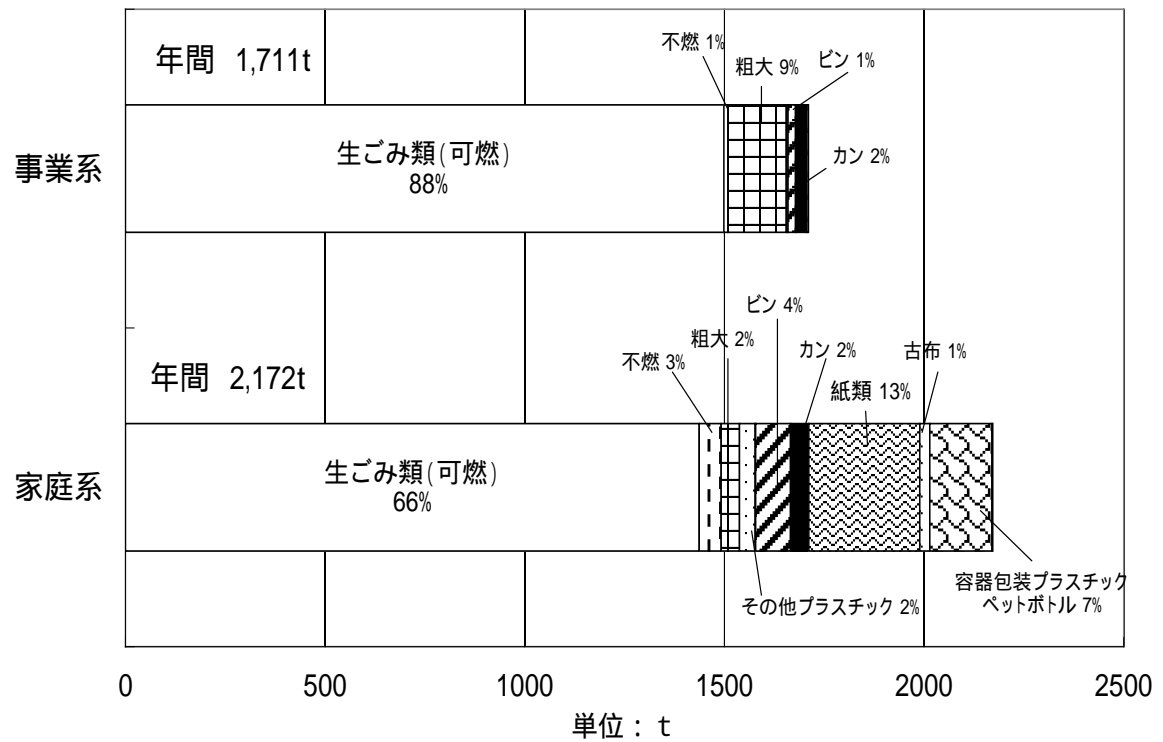
平成11年度からのごみ排出量の推移



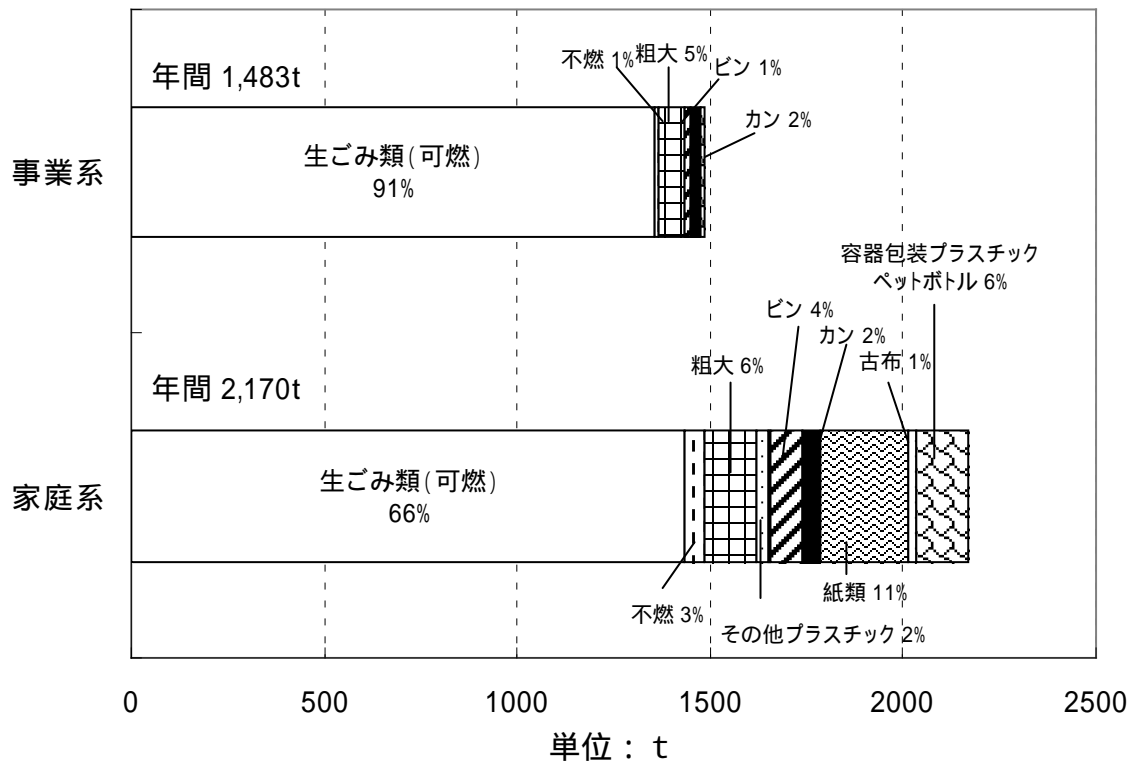
平成18年度のごみ量の内訳



平成19年度のごみ量の内訳



平成 20 年度のごみ量の内訳



平成 11 年度からの家庭ごみ減量化対象ごみの推移

